

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。



News Letter

2024年8月2回号 発行:常総生協広報G 2024.7.22

2024-25年度活動テーマ(案)「ともにつくる・考える 私たちの食」

「一人は万人のために、万人は一人のために」 生協発祥の地を訪ねる——『賀川記念館』

報告：副理事長 都留孝子



今回、神戸で開催されたNW21(※)総会終了後、中丸理事長とともに大正デモクラシーの時代、生協運動の先頭に立った賀川豊彦の業績を伝える賀川記念館資料室を訪ねました。

賀川豊彦は、消費組合について、「生産者と消費者とが結びつくことによって、社会秩序と助け合う組織とが作られる。それによっ

て、単なる利益追求も、労働者が単に搾取されるということもなくなる」と確信していたといひます。1929年、この理念のもと、共栄社を、翌年、現在のコープこうべ(単一生協としては世界的にみても最大クラス)の前身となる神戸及び灘購買組合を設立しました。

賀川の協同組合運動はまたたく間に全国に広がり、当時その理念を書いたテキストは世界中で愛読されたそうです。賀川は「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神こそ平和への近道と確信し、協同組合のなかにこそユートピアがあると、生涯その発展に尽くしました。

賀川豊彦の名前は、日本史A(日本近現代史)の教科書に、日本農民組合を結成した人物として紹介されていました。ですが、昨年、近現代の日本史と世界史の両方を学ぶ「歴史総合」に変わり、賀川豊彦の名前がなくなりました。

賀川が指導した大正時代の有名な木崎村小作争議(新潟)で、地域の女性達は地主への抗議を込めて「組合マッチ」を行商し、また子ども達の通う保守的な学校教育に抗議して、同盟休校を決行しました。賀川は農民組合員の子どものため学校を新設。大学生が先生役を買って出、大宅壮一が課外授業をしました。

小作側は裁判で敗けましたが、しかし以後、小作人への扱いは改善し、戦後、マッカーサーはこの日本農民組合運動における小作の力を認めたからこそ、農地改革に踏み切ったと言われています。

賀川豊彦らの農民運動は、小作料の減免を要求するだけでなく、小作人の人としての権利の回復、子ども達の教育権を求める文化運動にまで及んだことは特徴的で、茨城県菅生村(常総市)の小作争議もこの運動に習ったと言われています。

牧師、社会活動家、作家である賀川豊彦は、キリスト教精神を基盤にしながら、弱い立場の人々や「痛み」をもつ人々に寄り添い、他者のためにその生涯を捧げました。

.....

※NW21:7月12・13日、神戸で開催された「生協ネットワーク21(NW21)」総会に参加しました。常総生協と協力関係にある8生協・2連合会の理事が集まりました。次週以降、ニュースレターにてご報告致します。

福島第一原発 処理汚染水の海洋投棄開始から1年 放出量は5万4734トン

(報告:職員 木本)

ちょうど1年前の2023年8月24日。東京電力は「関係者の理解無しにはいかなる処分も行わない」という文書約束を破り、漁連の反対を押し切って「ALPS処理汚染水」の海洋放出をはじめました。



2024628 東京新聞WEBより

常総生協「生産者の会」は1回目の放出開始から4日後の去年8/28、経産省と東京電力を訪問し「海洋放出の即時停止」を求める申入れをしました。9月には300人を超える原告が東京電力に対して「ALPS処理汚染水差止」を求めて福島地裁に提訴。各地で反対運動が展開されていますが、東京電力は2024年6月28日～7月16日に7回目の放出を行いました。東京電力による周辺の海水測定では、これまでに1リットル当たり最大29ベクレルのトリチウム濃度が検出されていますが、国の基準の1,500ベクレル未満を下回っているため問題ないという構えです。

一方で、去年10/26にはALPSでの処理作業中に作業員が高濃度の汚染廃液を浴びる事故が起きたり、今年2月には処理前の汚染水が漏れ、大量の放射性物質が外に漏れる事故が起きたり、作業員の方がステップ台から落ちて大ケガ（左腸骨臼蓋骨折：骨盤あたりの骨折）をするなど、たびたび重大事故が報告され、東電の管理体制には不安が募るばかりです。

回数	投棄期間	投棄量【m】 (累計)
1回目	2023/8/24~9/11	7788 (7,788)
2回目	2023/10/5~10/23	7,810 (15,598)
3回目	2023/11/2~11/20	7753 (23,351)
4回目	2024/2/28~3/18	7,794 (31,145)
5回目	2024/4/19~5/7	7,851 (38,996)
6回目	2024/5/17~6/4	7,892 (46,888)
7回目	2024/6/28~7/16	7846 (54,734)

【ALPS処理汚染水の海洋投棄状況】

【7/15 海といのちを守るつどい～海の日アクション2024に参加してきました】



海洋放出に反対する「海の日アクション」。今年は福島県いわき市の三崎公園野外音楽堂で開かれました。いわき放射能市民測定室「たらちね」の藤田先生の三線（さんしん）に始まり、力強い「みや誠承太鼓」（左写真）、KOUKIさんの『♪海に流していいのげ』など、音楽を基調にしたとても明るいアクションイベントでした。ゲストの鈴木譲さんのお話を伺って「自由水型と有機結合型トリチウムの違い」に納得！報告します。

《鈴木譲さんお話》（東大名誉教授：魚類の免疫学がご専門）

・確かにトリチウムはエネルギーレベルが低い。そして水なので体に入っても汗なり尿なりで排出されてしまう。体の中に入っても、濃縮しないでそのまま出てくる。でもそれは「自由水型のトリチウム」の話。

・その「自由水型のトリチウム水」そのものから、有機物を作ってしまう生物がいる。植物です。植物は「水」と「二酸化炭素」を利用して光のエネルギーを受けて「光合成」を行う。それによって有機物を作る。炭水化物を作る。我々人間の体ももとをたどれば植物が作った有機物でできている。人体は液体が60%だけど、40%はもとをたどれば植物が作った有機物でできている。

・その有機物の元となる「水」にトリチウムが含まれていたら有機物にもトリチウムが含まれる。それが「有機結合型トリチウム」と呼ばれる。それは体の中に入ったら簡単には出ていかない。



鈴木譲さん

・海の中で、植物プランクトンが「有機結合型トリチウム」を作る⇒それを小さな動物プランクトンが食べる⇒それを小魚が食べる⇒その小魚を大きな魚が食べる。そういう連鎖の中で濃縮しないかどうかは誰も確かめていない。

・東電は、汚染水で飼育して「濃縮なんて起こってない」と言う。それは当たり前。「自由水型のトリチウム水」しか与えていないから。「有機結合型のトリチウム」を与えてないから濃縮するはずがない。

・「私に調べさせてほしい。徹底的に解析しますから」と言ったけれども、返事はない。

・海は人間だけのものではない。そこに住む全ての生物のためのもの。人間の勝手に汚すことは決して許されることではない。

・権力者・強者の側に立った御用学者に対して高木仁三郎さんは「市民の不安を共有する」という言葉で市民科学を表した。今多くの市民が原発からの汚染水を海に流して大丈夫なんだろうかという不安を抱えてると思う。

・私は1人の市民科学者としてもうしばらくは調査を続けて何とかはっきりした証拠をつかんで、海洋放出を中止に追い込みたいと思っております。

（会の最後に読み上げられた）～～海風うみかぜ宣言～～



武藤類子さん

私たちは今、愛する福島の前立に立っています。

北はベーリング海から千島列島、北海道の東を通過して南下する栄養豊かな親潮と、暖かな南の海、フィリピン、台湾の東方から大陸棚に沿って勢いよく北上する黒潮は、キラキラと力強く泳ぐ魚たちをのせて、ここ福島県沖で出会い、東へと向かう豊かな潮目の海となります。この海は、全地球に拡がり、世界をつないでいます。

はるか46億年の地球の歴史の中で、奇跡のように水を満々とたたえた海が現われ、何百万もの生物種を生み出し、育んできました。しかし、この歴史の中でつい最近に登場した私たち人間の活動が、今、この大切な海と地球の生態系を危機に追いやっています。地球規模の気候変動と海面上昇、海の酸性化、海洋資源の枯渇、海の砂漠化が進んでいます。そして、プラスチックや化学物質、放射性物質などにより、持続的な汚染がますます深刻になっています。

13年前に起きてしまった東京電力福島第一原子力発電所の事故は、今もなお続き、取り返しのつかない放射能汚染を引き起こしてしまいました。さらに昨年夏、ALPS処理汚染水の海洋投棄が始められ、たった今も、7回目の投棄が進められています。ALPSで処理されても、海水で薄められても、放射性物質の残るものを海に流し続けることは決して許されることではありません。そしてこの海洋投棄と軌を一にして、原発の推進と軍備拡大という不穏な流れが今、進められていることは、世界を破壊へと導く危険を高めています。

「海の日」の今日、私たちは、傷つけられてもなお恵みを与え続けてくれる海に、心からの感謝を捧げます。そしてこの海風にこたえ、私たちは誓います。

私たちは、海といのちを守るために、手をつなぎ、本当の声をあげていきます。

そしてもっともっとたくさんの人々の本当の声を聴き、信頼の手をつないでいきます。

そうすれば、私たちはより深い知性と行動で、この危機を乗り越えていくことができるに違いありません。
私たちは、いのちの未来へと向かう力強い潮流を、ここ福島から、起こしていきましょう。

2024 年 7 月 15 日

海の日アクション2024 海といのちを守るつどい 参加者一同

新役員からのメッセージ (6)

こんにちは。このたび理事になりました藤原弥生です。



理事 藤原 弥生

東日本大震災が起こる少し前に常総生協に出会い、組合員になりました。稲刈りや生協祭りのお手伝いなどに参加していた子供たちも成長し、一緒に行動することも少なくなりました。生協の仕組みについてもよく知らず、企画されたものに参加するだけの立場だった私に、果たして理事が務まるのか不安を抱えております。そんな中、理事会では、今まで

気づかなかった問題や新しいアイデアも次々に出されました。コロナ渦で中断されていた生産者さんや組合員同士の交流の場も、少しずつ戻ってきました。

生協本部協の畑では、希少な在来種の和棉を無農薬で育てています。この貴重な和棉の魅力を生かして活用するにはどうしたらいいか、考えていきたいです。

広く世界を見渡すと、地球の未来や国際問題、小さなことでは自分や身近な人たちの健康や将来についてなど、悩みや不安は尽きません。インターネットやテレビに溢れる情報も、何を信じたらいいのかわからない日々です。生協や人生の先輩方からのお知恵をお借りし、また、若い方からの意見もいただきながら、安心して暮らせる一歩が踏み出せたらと思います。皆さんも、興味のあることから一緒に始めてみませんか？ よろしくお願い致します。

新役員からのメッセージ (7)



理事 工藤 道子

今期理事を務めさせていただきます龍ヶ崎の工藤です。常総生協組合員歴は長いのですが、ノンポリ組で年に一度の総会出席で役割を果たしている様な気持ちでいた組合員です。

そんな私でも常総生協の「食への取り組み」の考え方には共鳴する事が多くあり、つついこのラインに乗っていれば安心・安全が手に入る「大丈夫！」との思いが強くなり、すっかりお任せの境地に入り込んでいました。

組合員としての協力・協働のルールをすっかり忘れていました。

台所目線から覗いてみても色々な問題へのつながりが山積みの世の中で何から手をつけたら良い方向へ向かうのか悩ましいところです。

無関心が難題をより深くスピードアップさせている現代で少しでもスピードをゆるめる力となれば嬉しいと思いました。

年齢に逃げ込まずに、ユニークで、誠実で、居心地の良い、大切な常総生協を守りたいと念じております。どうぞ宜しくお願い致します。

総代さんを訪ねて

総代の方から、お声がかかりました。「常総生協を盛り立て、支えていくために、なにかできるだろうか。」「組合員はじめ地域の方が、常総生協を介して緩やかにつながれないだろうか。」理事3人でお話を伺い、野菜作りのこと、健康作りのための酵素のこと。種の話。緑濃いお庭の木々、風を感じながら、たくさんアイデアをいただきました。ああ、是非、皆さんにお伝えしたい。今日、一緒に相談したことを、実現させたい。そんな決意を胸に、まだよちよち歩きの理事ですが。どうか皆さん、なんなりとお声かけください。一緒に常総生協を盛り立てていきましょう！（副理事長 都留）